

總數二百六十三件、参加人員五万五千百廿六人之  
ヲ大正八年好況時ニ比スレバ大約半減ノ趣ニ呈セ  
ルモ争議ノ實體ニ就テ揆數ヲ加フル労働運動意識愈々  
刻ヲ加ハ益々其ノ根柢ヲ鞏固ニスル所以ノモノ少  
カラズ或ハ労働者階級闘争ノ心理一層明確ヲ加ハ  
タルモノアリトスベキカ

此年主要争議ニ於ケル戦術ハ前ニ比較スルニ  
略ノ巧拙ヲ見ルノミナラス争議中如實調停  
ノ

労働団体ノ行動ハ人ヲシテソノ潛勢力ノ如何ニ大  
ナルカラテ想ハシムルニ足ルモノアリ。近時ノ争議中

最初労資間ノ交渉不調トナルヤ先ツ怠業ヲ行ヒ次  
テ罷業ニ移リ而シテ能ク長期ノ對抗ニ堪ヘ容易  
ニ資本家側ノ圧迫一服セザル事例ハ尠ナカラズ

又ノ前後ニ因ニ於ケル新潟鉄工場争議ノ如キ  
野田塩油株式会社争議ノ如キ池貝鉄工所争議ノ  
如キ何レモ然リ